

農政局だより@ひょうご

2023.2
H-SATT

〒650-0024

神戸市中央区海岸通29 神戸地方合同庁舎

TEL:078-331-5924 Email:hyogo28_hsatt_kinki@maff.go.jp



兵庫県における

土づくりのためのセミナー

を開催しました



オンラインで開催

新規就農者、化学肥料の低減・有機農業への転換に取り組む生産者などが、土づくりに関する知識を習得し、営農の課題解決の一助となることを目的に、令和5年2月1日(水)、兵庫県の全面的な協力により、「兵庫県における土づくりのためのセミナー」を開催しました。

セミナーはオンライン形式で行い、当日は生産者に加え、自治体や資材メーカーなどから約200名の参加がありました。県農林水産技術総合センター、農研機構中日本農業研究センターの職員が講師を務め、講演に対し、多数の質疑応答が交わされました。セミナー後のアンケートでは、今後開催を希望するテーマについては「有機農業」「スマート農業」「鳥獣被害対策」などがあがりました。

今後も、県や関係機関と取組方針などの情報を共有しながら、連携を進めてまいります。

当日、兵庫県拠点から、土づくり・有機栽培に関する情報をまとめた資料を提供しました。資料については、こちらのアドレスからご覧いただけます。

<https://www.maff.go.jp/kinki/tiiki/hyogo/tutidukuri/20230201kyotensiryu.pdf>



農研機構が公開したウェブサイトのご紹介

スマ農成果ポータル

スマート農業技術導入の経営分析結果や

導入技術・実証地区ごとの成果を見ることができます

自動運転トラクタや食味収量コンバインなど9つの技術別に、導入の効果やトラブル例、実証事例などが掲載されています。

詳しくは農研機構のホームページをご覧ください。

https://www.naro.go.jp/smart-nogyo/seika_portal/index.html



農研機構

[サイトマップ](#) [お問い合わせ](#) [English](#)


自動運転トラクタ

- ◎ 効率的シードまき機 [PDF 629KB]
- ◎ 新しいチェックリストはこちら [PDF 345KB]

導入の効果



- 導入で現場内を自動走行するトラクタ。無人機と無人機の協働作業により、1人で2台の操作が可能。導入後は現場内や周辺から作業監視して使用し、特設時の作業効率を向上。
- 導入費: 約1,000万円～1,500万円

～有機で地域のハブを担いたい！～

〈株式会社やがて・黒瀬啓介さん〉

丹波篠山市で、有機JAS認証を取得した、丹波黒枝豆・丹波黒大豆、丹波大納言小豆、オーガニックローズ、オーガニックハーブなどを生産されている「株式会社やがて(Earth color garden)」代表取締役の黒瀬啓介さんにお話を伺いました。

－就農のきっかけや株式会社を設立された経緯は－

2010年に妻の実家がある篠山に移住し、広告会社に勤務する傍ら、黒豆栽培の手伝いをしていましたが、耕作放棄地が増え山林化する農地を見るにつけ、このままではいけないと思い、失われていく「地域の自然・文化環境を再構築し、

やがて持続可能な理想郷を実現し、次代に進化続ける地域をつくるための道を切り拓く」ことをモットーに、2019年に「株式会社やがて」を設立しました。



自社の商品を手にする、黒瀬啓介代表（右）と同社マーケティングガーデナーの佐藤文博さん

－現在の経営概況や活動状況は－

現在約8haの農地で、丹波黒大豆を6ha（うち半分は丹波黒枝豆）、丹波大納言小豆30a、水稻1.3ha、オーガニックローズやバジル等を30a作付けしています。

また、有機農産物の生産以外に、黒豆茶等の加工品製造を始め、耕作放棄地を活用した錦鯉やホンモロコの養殖事業、養蜂も行っています。販売先は大手流通企業への出荷が主で、最近では自分の目で見て『こちら』と思った店頭にも置いていただいています。

－今後について－

今後は、山際の耕作放棄地での栗栽培や竹林の整備をし、竹の堆肥利用など、里地・里山を守りながら、地域の有機農産物のハブになれるよう、生産・小分け・加工を担っていきます。



耕作放棄地を活用した錦鯉の養殖



丹波黒枝豆（上）と加工製品のローズティー、黒豆茶

「つなぐ棚田遺産」感謝状贈呈企業等の選定について

「つなぐ棚田遺産」感謝状とは、棚田地域における多様な主体との連携や協力を促進することを目的として、棚田地域の振興等に貢献する企業・大学等の取組を評価し、優れた取組を実施する企業等に感謝状を贈呈させていただく取組です。

未来へつなぐ部門、人と人をつなぐ部門、クリエイティブ部門の3つの部門に分けて、棚田からの感謝が伝えられます。

兵庫県では、**人と人をつなぐ部門**で、**株式会社Amnak**（養父市）が選定されました。

感謝状贈呈式は令和5年3月9日（木）にオンラインで行われます。

詳しくは

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/tanada/kansyajyosentei.html>



農業女子アワード2022 ベストウーマン賞を 辻 朋子さん（多可町）が受賞されました

令和5年2月14日（火）「農業女子アワード2022」が開催されました。

最終審査に進んだ15組が、農や食、暮らしの活性化にむけた多彩なアイデアを披露。各5部門の最優秀賞が決まり、ベストウーマン賞には、アルファ化米粉の介護食への活用を提案した、**農業者・辻朋子さん（多可町）**が輝きました。詳細は次号に。

最終審査の結果はこちら：https://myfarm.co.jp/women/nougyoujoshi_award2022/finalist.html



あなたの **むら** は美しい、広がれ共創の輪 農山漁村発イノベーション対策

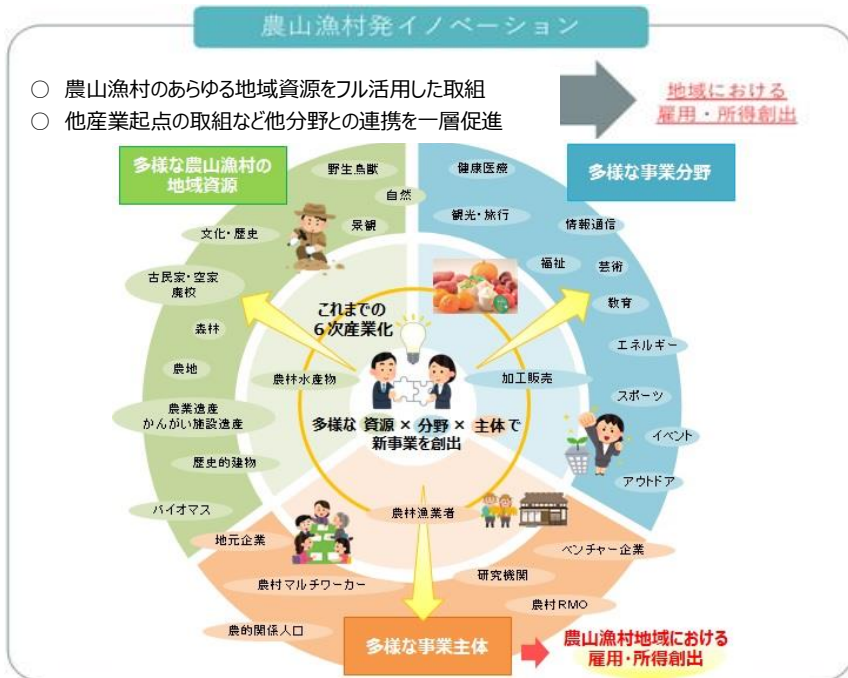
農山漁村発イノベーションとは、農林水産物や農林水産業に関わる多様な地域資源を活用し、新事業や付加価値を創出することによって、農山漁村における**所得と雇用機会の確保**を図る取組のことです。

農林水産省では、これまでの6次産業化の取組に加えて、多様な事業主体が、多様な地域資源をフル活用して、新事業や付加価値を創出する取組を推進しています。

【令和5年度農山漁村振興交付金】

農山漁村発イノベーション対策

https://www.maff.go.jp/j/budgetget/pdf/r5kettei_pr61.pdf



【兵庫県内の取組事例を紹介！】

株式会社 NOUEN (朝来市) (総合化事業計画 平成31年3月認定)

地域の特産野菜である岩津ねぎの直販と、岩津ねぎを使用した加工食品の開発・製造・販売に取り組んでいます。

また、6次産業化で培った事例をベースに、自社以外の生産者に向けて、新たな販路と農産物の加工品への活用を提案し、地域における雇用や所得向上に貢献しています。



加工することによって、食品メーカーも取り扱え可能となり、販路が拡大しています。

☆兵庫県拠点HPでは、6次産業化、農福連携の取組事例を紹介しています。

<https://www.maff.go.jp/kinki/tiiki/kobe/index.html>



-コンテンツの一部をご紹介-

農林水産省とJALの連携プロジェクト「華麗にマイル！」

カレーの食材を集めに飛行機旅をするミステリーツアー

食材の一つとして淡路市のたまねぎ「あまたまちゃん」が動画で紹介されています。<https://nippon-food-shift.maff.go.jp/curry/jal/>

農林水産省とnoteの連携プロジェクト #カレーにこれ入れる

身近なカレーを題材にした投稿企画 #カレーにこれ入れる を2月14日(火)から3月12日(日)まで開催しています。

【このような投稿を募集しています】

- ・好きなカレーの具材や思い出の具材 ・こだわりのスパイスや調味料
 - ・カレーをつくるときの自分なりのポイント ・素材の産地にこだわった話
- 詳細はこちら：<https://note.com/info/n/n27f82e8a8401>



ニッポンフードシフト公式WEBサイト

<https://nippon-food-shift.maff.go.jp/>



NIPPON
FOOD
SHIFT

カレーから
日本を
考える。

農家と障害者がWinWin（相互利益）の関係を築けるように

自分らしく活躍できる地域をめざそう - 西播磨地域の取組の紹介 -

人手不足に悩む農家と、働く機会の拡大を目指す福祉施設が協力し合う“農福連携”の取り組みが、西播磨地域で広がりをみせています。

西播磨地域では、令和元年度から健康福祉事務所と農林振興事務所、そして西播磨地域障害者就労支援施設等連絡協議会が連携して農福連携のための検討会を設置しました。

「まずは農福連携を知ってもらおう」ということで、令和2年から、地域の農業者や福祉施設関係者、自治体等が参加し「農福連携ネットワーク会議in西播磨」が毎年開催されています。



兵庫県西播磨県民局 光都農林振興事務所の齊藤課長補佐と小川主任

そのほか、勉強会や農福マルシェの開催、管内における実際のマッチング事例などから得られたノウハウをまとめた「西はりま農福連携マッチングガイドブック」を作成し、普及啓発に取り組んでいます。

光都農林振興事務所の齊藤隆満課長補佐は、マッチングを進めていく中で「技術支援が必要である」と感じ、現場で実践する手法を具体的にアドバイスできる専門人材（農福連携技術支援者）を育成するための農林水産省認定の研修を、昨年受講されました。研修を通じ、伝え方の重要性を学び、今後のマッチング支援で活かせれば、と抱負を語られました。

また、さらなる認知度の向上と取組の拡大を図るためロゴマークが作成されました。農福連携によって生産された農林水産物や加工品への貼付や、パンフレット・のぼり等の広報物等に活用されています。



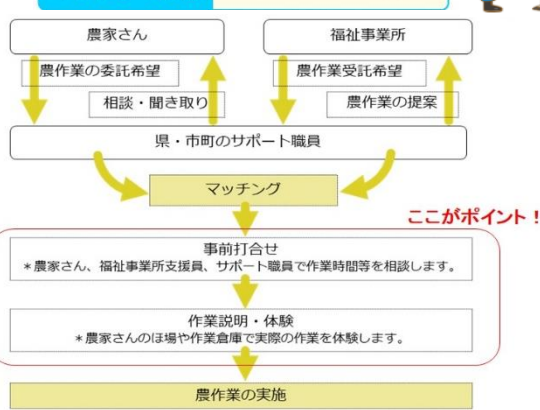
農業 × 福祉 でもっといい未来

西播磨農福連携ロゴマーク

ナナちゃん

西播磨県民局での

マッチング支援 マッチングの流れ



事前打ち合わせで福祉事業所と農業者の相互理解を深める

『令和5年春の農作業安全確認運動』の実施について

＜令和5年春のテーマ＞ 徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策

【事故防止対策】 ほ場周辺の危険箇所の確認・危険回避行動の実践

【被害軽減対策】 シートベルトとヘルメットの着用、安全フレーム付きトラクターの利用

＜運動期間＞ 春：令和5年3月1日～5月31日（3ヶ月間）

農林水産省では、農作業死亡事故を減少させるため、春作業が行われる3月～5月を重点期間として、全国の関係機関の協力の下「春の農作業安全確認運動」を実施します。

【主な取組内容】

- ① 農業者への声掛け運動 ② 研修を通じた対策の徹底



兵庫の冬の風景

神戸花時計（神戸市東遊園地）



6色のビオラ300株を使用し、卒業・入学シーズンが近づき、新たなスタートをお祝いするような「めでたい」デザインに植え替えされました。

編集後記

農業（水稻70a）を継承して2年になります。中山間地のため、継承には抵抗があったのですが、雑草を生やすと近所迷惑になると、やはり先祖より守ってきた農地だからという気持ちが少しはあり、仕方なく…。買ったほうが安いとよく言われます。私も親父によく言っていました。でもいざ栽培してみると、折角やるのなら、できるだけ良いものを作りたい、できるだけ儲かる農業にしたい…など、不思議な気持ちになり、休日には野良仕事に頑張っています。このまま、もう少し頑張りたいと思います。（Y・T）



地方参事官ホットライン

農政に関するご相談、事業や制度へのご意見・ご質問などがございましたら、お気軽に地方参事官ホットラインまでお問い合わせ下さい。また、広報誌に対するご意見等もお待ちしています。